

抑制トマト

営農部営農振興課 営農指導員 小柳 哲義

農作業

テクニカルダイアリー

秋冬ニンジン

山武経済センター 営農指導担当者 富谷 公博



令和2年産の振り返り

昨年は、播種時期より生育初期の高温・乾燥の影響により、早生品種において、肩コケや空洞症(写真①)が散見され、選果選別に苦慮しました。今回は空洞症、肩コケを軽減するための方策をお伝えします。

空洞症対策

空洞症の発生原因ははっきりと分かっていますが、昨年は初期生育が高温で停滞した後、9月中旬の降雨により根部の肥大が急激に進んだこと、元肥の窒素量が多いこと



写真① ニンジンの空洞症



写真② 扁平したニンジン

肩コケ対策

などの要因が考えられます。早生品種では、肥大性の良さから愛紅の作付けが多く、主力品種となつていますが、他の品種でも空洞症が散見されたため、品種変更では対応が難しい状況です。施肥前に土壌診断を行い、適正施肥を心掛けましょう。空洞症が発生しているニンジンには形状が扁平なものが多いので、選別時に注意してください(写真②)。

① 播種時期の見直し

近年の播種時期は高温の日が多く、播種後、高温下での栽培期間が長いほど肩コケが発

生しやすくなります。令和2年産において、同じ品種で8月1日に播種したもののよりも、5日以降に播種した方が肩コケの発生割合が少なく、品質面でも優れました。早期出荷を求めて播種時期が早まっていますが、播種時期をずらすことを検討してください。

研究センターの研究では、胚軸部分が高温時に露出していると肩障害が発生しやすいことが分かっています。対策として、播種から1カ月が経った本葉3枚ごろに、株元に土寄せを行います。胚軸部分が土で覆われ、肩障害が軽減します。また、株元が保護されることで熱風による枯死も防ぎます。

将来ニンジンの肩となる部分(胚軸・写真③)が強風などで傷つくことで、肩コケやエフボ症などの肩障害が発生するとこれまで考えられていました。しかし、千葉県農業総合研

土寄せは「たがやすくん」などを使用し、ニンジンの条間を耕してください(写真④)。栽培面積が大きい方は、早生品種だけでも実施してみてください。



写真③ ニンジンの胚軸



写真④ たがやすくんを使った土寄せ

課題認識

令和2年産の抑制トマトは長梅雨とその後猛暑により出荷量が伸び悩み、平成30年産では30万ケース近くあった出荷量が、20万ケースを割る結果となりました。JAとしてもこの状況を深刻にとらえ、令和3年産の作付けを前に、産地全体で取り組む対策と、被害状況に応じて取り組む対策をまとめました(表①参照)。

病害虫対策

●黄化葉巻病

昨年は発生する時期が早く、被害も大きかったことから、収穫に至らなかった圃場もありました。特に昨年被害のあった圃場では、育苗期からの対策を徹底してください。

●対策のポイント

- ①圃場周辺から「入れない」持ち込まないための耕種的対策の実施。
- ②ハウス内で「増やさない」ための薬剤防除の徹底。

表① 令和3年産の主要課題

主要課題	産地全体に推奨する取り組み	被害状況に応じて取り組むこと
黄化葉巻病対策 (タバココナジラミ対策)	<ul style="list-style-type: none"> ●作付け前の周辺除草 ●防虫ネットを展張した育苗管理 ●育苗後半～定植時の薬剤処理 ●黄色粘着板の設置(発生予察) ●予防中心のローテーション散布 ●散布量の確保、葉裏までの丁寧な散布 	<ul style="list-style-type: none"> ●抵抗性品種の作付けを検討 ●0.4mm目合いの防虫ネット展張(高温対策と併せて実施) ●被害残渣の早期処分
高温対策 (着果不良対策)	<ul style="list-style-type: none"> ●適期定植(良苗定植) ●通路灌水 ●低段摘果 	<ul style="list-style-type: none"> ●遮熱資材の使用 ●地温低下マルチの使用 ●換気扇、循環扇の設置検討

③ハウス内のコナジラミを圃場の外に「出さない」、次の作に「繋がない」ための適正な残渣処分。

高温対策

例年、定植後の高温により、中段落果で着果不良が発生、収穫量が減少する傾向があります。特に8月末までは、遮熱資材(ネットや塗布剤)を活用したり、通路灌水により、ハウス内の温度を下げる対策をしてください。樹勢を維持するために、低段花房の摘果(1〜2段目を3果程度まで抑える)も検討しましょう。

その他の対策

生理障害や障害果の発生は、施設内の環境条件や養分バランスの崩れが要因として挙げられます。作付け前には必ず土壌診断を実施しましょう。前作からの準備期間が短い場合でも、追肥直後でなければ、おおよその傾向は計れますので、作付け中の畝間から土壌を採取し、診断を受けましょう。

前出の黄化葉巻病の他にも、近年は斑点細菌病(写真⑤)や「褐色輪紋病(写真⑥)」といった

病害の発生が増えていきます。いずれの病害も登録農薬に限られているため、他の病害と同時に防除する考え方で、発病前の予防散布を心掛けてください。



写真⑥ 褐色輪紋病
(小さな斑点が増え拡大する[輪紋状]。果実にも被害あり)
(写真提供:タキイ種苗株式会社ホームページ)



写真⑤ 斑点細菌病
(斑点は小さいまま。果実にも被害あり)
(写真提供:農業電子図書館)

4月の分析経過について

合計9点	
春ニンジン	2点
夏ネギ	2点
春ブロッコリー	1点
ミツバ	1点
大玉スイカ	1点
タマネギ	1点
ソラマメ	1点

※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。

土壌診断点数 …… 合計55点